

# KN グローカルリサーチレポート

2020年10月  
No.54



爽やかな秋の日が続きます。

コロナを機に、自転車通勤を始めた方もいらっしゃるようです。

手軽な自転車だからこそ、安全を心掛けたいです。

## 自転車損害賠償保険—加入義務（静岡県自転車条例）

『静岡県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例（静岡県自転車条例）（2019年4月1日施行）』で、自転車損害賠償保険（自転車保険）への加入が義務づけられてから10月1日でちょうど一年が経った。皆様は、自転車保険に加入していますか？



[静岡県自転車条例](#)

静岡県自転車条例の第11条から第13条では「自転車損害賠償保険の加入義務」として、自転車事故の備えと被害者の救済を図るため、自転車利用者（未成年者の場合は保護者）は、自転車保険へ加入しなければならないと定めている（罰則は無い）。

自転車条例を設けている県や市・区は全国で約100あり、そのうち東京都や神奈川県、名古屋市など多くの県や市で、自転車保険への加入を『義務』としている。

自動車保険や火災保険などの保険で、既に自転車事故の補償が付帯されている場合もある。ご自身やご家族の自転車保険への加入状況を確認しましょう。



[加入状況チェック](#)

### 【静岡県の自転車事故（R1の統計から）】

静岡県内で自転車に関係する交通事故は、R1で3,658件あった。事故件数は年々減少傾向にあるが、死者数は減っていない。

表1 県内の自転車事故の推移	単位：件数				
年	H27	H28	H29	H30	R1
件数	4,262	4,152	4,278	3,992	3,658
死者数	19	22	14	19	19

静岡県警の統計より

### 【自転車事故の分析】

- ・車両相互の事故が多く、「出会い頭」が約60%、「右折または左折」が約25%となっている。
- ・事故原因は、「一時不停止等」が39.1%、「安全不確認」が23.6%、「脇見」が8.1%などとなっている。
- ・年齢層別では、「高校生」が最も多く26.2%、次いで「65歳以上」が18.6%、「20～29歳」が11.5%となっている。
- ・事故が起きる時間帯は、通学・通勤時間の「6～8時」が16.7%、「8～10時」が17.8%、「16～18時」が18.0%、「18～20時」が12.0%となっている。

- ・自転車事故の死亡者の損傷部位を見ると、約7割が「頭部」に致命傷を負っており、そのうちの95%はヘルメットを非着用であった。

静岡県自転車条例では、小中学生の自転車通学時のヘルメットの着用を『義務』としている。

自転車事故の傾向を認識して、事故を起こさないように注意したい。

## アクティブラーニング

### ～米国HighScope幼児教育カリキュラム 視察記～ (No.10)

#### 【問題解決方法 Conflict Resolution】

子どもが物を取り合ったり、意見が合わずにけんかになった場合、大人がどのように対処すればよいか、HighScope では「問題解決の6つのステップ」を示しています。

##### STEP 1. 静かに近寄り、危険を伴う行動を止める

- ・子どもたちの目線で、子どもたちの間に入る
- ・穏やかな声で優しく子どもに触れる
- ・中立の立場を保つ

##### STEP 2. 子どもの感情を受け止める

- ・「本当に怒っているのね」
- ・子どもがわかるように、けんかの原因になっている物を預かる

##### STEP 3. 情報を収集する

- ・「どうしたの？」

##### STEP 4. 問題を再度述べる

- ・「そう、問題はね・・・」

##### STEP 5. 解決につながるアイデアを尋ね、一緒に一つを選択する

- ・「どうやったら、解決できるのかな？」
- ・子どもたちを励まし、解決策を考える

##### STEP 6. フォローする体制を用意する

- ・「問題を解決できたね」
- ・子どもに寄り添う(様子を見る)

HighScope では、大人が結論や判断を下すのではなく、子どもが自分たちで話し合って問題解決できるスキルを身につけさせる、アクティブラーニングを行います。

#### Steps in Resolving Conflicts

1. Approach calmly, stopping any hurtful actions.
  - ・ Place yourself between the children, on their level.
  - ・ Use a calm voice and gentle touch.
  - ・ Remain neutral rather than take sides.
2. Acknowledge children's feelings.
  - ・ "You look really upset."
  - ・ Let children know you need to hold any object in question.
3. Gather information.
  - ・ "What's the problem?"
4. Restate the problem.
  - ・ "So the problem is..."
5. Ask for ideas for solutions and choose one together.
  - ・ "What can we do to solve this problem?"
  - ・ Encourage children to think of a solution.
6. Be prepared to give follow-up support.
  - ・ "You solved the problem!"
  - ・ Stay near the children.

 HIGHSCOPE.



執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士  
(公社)子どもの発達科学研究所 事務局長

浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org